

長野県諏訪清陵高等学校附属中学校(仮称)地域説明会の開催状況について

高校教育課

1 開催日時・会場

月 日	時 間	会 場	参加者数
5月 8日(火)	18:30~20:30	諏訪市文化センター	約 260 名
5月 15日(火)	18:30~20:30	岡 谷 市 役 所	約 190 名
5月 18日(金)	18:30~20:30	茅 野 市 役 所	約 290 名
5月 22日(火)	18:30~20:30	塩尻市保健福祉センター	約 100 名
6月 1日(金)	18:30~20:30	長野県伊那合同庁舎	約 70 名
6月 12日(火)	18:30~20:30	長野県松本合同庁舎	約 90 名

参加者総数 約 1000 名

2 開催内容

- (1) 長野県諏訪清陵高等学校附属中学校(仮称)の全体構想(教育課程・クラス編成・特色ある教育活動等の学校像や開校に向けた推進計画)、入学者の選抜方法について、パンフレットやプロジェクターを用いて説明
- (2) 質疑応答(主な内容は別紙のとおり)

平成 24 年 5 月 8 日（火） 18 : 30～20 : 30

諏訪市文化センター ホール

参加者 約 260 名

主な意見交換の内容（○ゴシックが参加者の質問等）

（塾経営者 男性）

○今年度行われた適性検査では、英語について特に検査してなかったが、清陵附属中学では英語力に力を入れると説明があった。実際、入学してくる小学生に求める英語力はどの程度のもを想定しているのか。

◇清陵附属中学で求める小学生の英語力は、昨年度から始まっている外国語活動で養われるコミュニケーション能力の素地、つまり積極的に人にかかわろうとする姿勢等である。清陵附属中学では、入学生を小学校の外国語活動をやってきた生徒という認識をもって授業をスタートさせるので、それ以上の力は想定していない。

（小学校教諭 男性）

○①目指す生徒像の、高い学力のところの「重厚な教養主義」についてもう少し説明してほしい。

②面接は、子どもたちは6人から8人と聞いたが、面接官にはどのような人を据えるのか。また、何人ぐらいの人が面接するのか。

③一番最初の子もたちを教える先生方は、高校から来られる先生が多くなるのか。普通の公立中学校の先生が異動してくるのか。

◇①重厚な教養主義について、清陵附属中学では、大学入試などの受験勉強のみの学力をつけるのではなく、じっくりと深く学ぶことにより、骨太な学力をつけていくということであると考えている。

②面接官については基本的に、清陵の先生方をお願いしたい。屋代の場合は3名であったが、これもこれから検討していきたい。

③基本的には中学校なので公立の中学校から異動された先生が中心になる。もちろん、中高一貫校だから高校の先生方も相乗りで授業を行うことになる。

（茅野市 保護者 女性）

○入学者の選抜について、適性検査の内容が、I・IIと分かれ、抽象的に書かれているが、これは、単純に国語・算数・理科・社会のテストとして捉えるのか、どういう試験を考えているのか具体的に答えられたらお願いしたい。

◇学力検査で行われるような各教科ごとの検査ではない。具体的には、試行検査や屋代附属中学の検査内容を県のホームページ等で紹介しているのでそちらをご覧ください。

（岡谷市 保護者 女性）

○清陵高校の校風として自治という大きなものがあり、附属中学も自治が重んじられるものと思っている。保護者として疑問と思うのは、先輩がいない状態で一期生が入学するが、自治というものは上のかたを見ながら学んでいくものと思われる。生徒会活動は別組織、行事や部活動については共同のものもあるようだが、このあたりをどう考えているのか。

◇基本構想としては、中学生の指導力も高めていきたいので、生徒会活動は別の組織にしたいと考えている。今後、具体案を考えていく中で、どのように高校生とかかわっていくか組織づくりから考えていきたい。本校の高校生も中高一貫について積極的に考えてくれているので、高校生の意見も聞きながら考えたい。部活動・行事についてもできる限り高校生とかかわっていきながら、後輩として、また、中学生として伸びていけるような案を作っていきたい。

（諏訪市 保護者 女性）

○長野県の中高一貫教育の教育理念は「人の心の痛みのわかる豊かな人間性の涵養」とあるが、説明を聞くと、学力重視ではないかと思う。どうやって人間性を養っていこうと思っているのか。

◇本校の特徴的なことの一つとして、学級編成がある。中学校のクラスは毎年クラス替えをする。80人という少数人数の中で幅広い人間関係を築きたい。また、3学年そろくと240人になるが、これも小さな集団であるので、縦割りの活動、総合的な時間を利用して豊かな人間性を養いたいと思っている。また、様々な体験学習の中で、他校との交流、例えば特別支援学校との交流などから、様々なものの見方を学ばせたい。さらに、高校段階では、外進生と混合した学級編成をすることにより、幅広い人間関係の中からしっかりと人間性を培うことができると考えている。

（諏訪市 塾経営者 男性）

○①クラスは40人学級が2つと思うが、数学や英語を能力別にクラス分けするのか。

②報告書について、5,6年生それぞれ24点の、その採点の方法、各教科何点ずつになるのか。

- ◇①中学校の英語・数学は少人数学習を展開したいと考えている。その講座編成を習熟度別にするかどうかは、人的配置を含めてこれから検討する。
- ②1教科1点から3点、それが8教科あるので 24 点になる。校長先生を委員長とする報告書作成委員会を各小学校で組織して作っていただくようお願いしている。

(塾経営者 男性)

- 今回の説明の中には、「希望者」という箇所が2箇所あった。サタディ・スパイラル・セミナーと海外語学研修の2つである。80 人が全員希望したら本当に受け入れられるのか。土曜の場合は、地域の方も参加するとあるが、どのくらいの規模の講座を考えているのか。海外語学研修は費用の負担はどのように行われるのか。
- ◇海外語学研修については、費用の面の問題が発生する。公的にはお金は出ないので、ご家庭の負担となる。お金の問題がクリアされれば全員参加も可能と思われる。土曜日の講座については、希望としているが、ご家庭や中学生の希望があれば全員参加しても可能なように講座を編成していきたい。
- 海外語学研修については、お金の問題によって、参加したくてもできない子どもが出た場合、公立の中学校としては望ましくない。できれば、県全体・諏訪市・諏訪地区が配慮して進めて欲しい。

(教育関係者 男性)

- ①適性検査の問題は難しかった。あの問題に対して塾に通わなくても対応できると考えているか。
- ②募集人員が 80 人ということは、今の高校の 240 名の募集定員のままとすると、外進生は 160 人か。また、地元から附属中学に多く入学すると、他の地元の中学校が落ち込んでしまうのではないか。逆に、広域から、附属に入学してしまうと、今まで清陵高校に入学できていたような生徒が入れなくなるのではないか。
- ③施設面について、部活動は中学校生活にとって大切と思うが、高校生と一緒にやるとなると、部活動がしっかりとできるのか、あるいは中学生がやりたい部活動は開設されるのか。
- ◇①出題は小学校の学習指導要領の6年生の 11 月までの内容である。学力テストではないので、中学校入学後に求められる思考力・判断力・表現力をみるもので、塾に通わなくても対応できるものと考えている。
- ②他地区からの流入数や中学校の卒業生数の推移を見ながら最終的に募集人員を決めるが、現時点ではおっしゃる通り4学級が妥当ではないかと考えている。また、通学時間を約 1 時間とすると、通学可能範囲に 100 以上の小学校がある。入学生が分散することにより、地元中学への影響を最小限にすることができると考えている。
- ③どのような部活動を開設するか、現在検討中であるが、来年3月の附属中学の具体像策定までには決定していく。

(塾経営者 男性)

- 日課表を見たが、部活動はこの後やるということなのか。電車通のお子さんも多くなると思うが、だいたい何時頃までには子どもを家に帰したいと思っているのか。
- ◇週4日の午後4時放課の日を、部活動などに有効に使いたい。上諏訪駅の上下線ともに6時の電車に乗せたい。学校での活動は、遠距離から通学する生徒のことを考えると5時 30 分頃までにしたいと考えている。

平成 24 年 5 月 15 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 30

岡谷市役所 9 階 大会議室

参加者 約 190 名

(小学校教諭 男性)

- 80 名募集ということだが、高校進学時に、市町村立中学校・私立中学校から入学者選抜を通じて入る生徒は何名くらいになるか。
- ◇併設の中学生が高校に入学するのは、平成 29 年以降ということになるが、平成 29 年以降の他地区からの流入数や他地区への流出数、中学校の卒業生数の推移を見ながら最終的に入学者数を決める。現時点では2学級分引いた4学級が妥当ではないかと考えている。

(下諏訪町 男性)

- ①男女各 40 名という説明があったが、男子と女子のそれぞれの平均点があまりにも違っていたらどうするか。
- ②松本の方は小学校から「囲い込み」が盛んで、諏訪地方からも小学生が行っている。今回、附属中学を設けるが、将来的に小学校から清陵の附属としての機関を設けるといったことはあるのか。
- ◇①基本は男女各 40 名とるとということで、選抜の結果、大きな差は生じないと考えている。
- ②「囲い込み」をするのか、といったようなことについては、特にそういうことは考えていない。

○①について、例えば点数が極端な話、倍ぐらい違っても、40名ずつなのか。

◇男女分けたときに、極端に違いが出るということは想定していない。屋代附属中学の結果を見ても、男女間で極端な違いはなかった。

(岡谷市 塾講師 女性)

○①中高一貫の生徒はどのような教科書を使う予定か。

②中高一貫校の倍率は、東京都内で、最低で5.3倍、最高で8.0倍、屋代附属中学で6.3倍という高い倍率である。清陵附属中学ではどのくらいの倍率になるのか見当はついているのか。

◇①まだ決定はしていない。開校前年度に教科書採択を行っていく。今年開校した屋代附属中学については、普通の公立中学校で使っている教科書を使っている。ただし、発展的な内容も扱うので、副教材も使用している。

②倍率の見当については、なんともいえない。

○③目指す人材像の方針はよく分かったが、逆にどんな人材・どんな子を求めているのか。

④高校進学時に諏訪清陵高校の学力に達していない生徒のフォローはどうするのか。

⑤諏訪清陵高校のSSHの活動の具体的な実績を教えてください。

⑥報告書の点数は5・6年合わせて48点ということで、1学年24点になるが、どのように点数をつけているのか。

◇③特別に定めているわけではないが、本校に入っていたら、目指す生徒像にそって「高い学力」「広い視野」「強い意志」を持った子どもになっていってもらうように私どもが努力していきたい。それぞれ志をもって、6年間、頑張っで清陵で学びたいと思っている子どもには是非目指していただきたい。

④お預りした以上は、6年間しっかりと育て、面倒を見ていきたい。中学校段階で学力差が広がらないようにしていくためにも、65分授業でじっくり学んだり、サタディ・スパイラル・セミナーで学力を補っていきたい。

⑤毎年、2月にその成果を発表する課題探究発表会を設けている。そこでの発表を是非観ていただきたい。中には、自分の追究したことをもとに大学進学を目指すものも数多くいる。また、昨年度から始まった「科学の甲子園」に、本校のSSHで学んでいる生徒たちが長野県代表として参加した。

⑥小学校の校長先生を委員長とする報告書作成委員会を組織して、各教科1点から3点の3段階でつけている。

(茅野市 保護者 男性)

○①男女各40名とする意味合いを教えてください。

②男子40名となると、3学年でも120人となる。部活動では、個人競技はなんとでもなると思うが、団体競技はなかなか人数が揃わないと思う。そうした場合、高校で野球やサッカーをやりたいと思った場合、他の中学から来た生徒の方が、練習量・試合経験など豊富で、中高一貫生はそこで大きな差をつけられるのではないのか。

◇①義務教育段階であるということを考慮して、児童・生徒の発達段階を考えたとき、男女同数にするのが自然ではないかと考えた。

②部活動については、どういうクラブを設置するのかという問題になると思うが、生徒数とか活動場所・活動時間等を考慮して、学校と相談しながら、どういうクラブを設置するか考えていきたい。

○自分の子どもは少年野球をやっているが、一期生40人揃った時点で、野球部はできないという可能性もあるのか。

◇来年3月の附属中学の具体像策定までには、どんなクラブを設置していくのか決定していく。

(下諏訪町 男性)

○①中高一貫ということで、せつかく6年間の学習カリキュラムが組めるのに、中学校は中学校で、高校は高校でといった、今までの延長線上でのカリキュラムのような気がするが、どう考えているのか。

②授業時間について、英数国は確かに10%とか30%以上、長時間の授業になっているが、その他の科目はどうなのか。数学がかなり重視されているようだが、理数系を目指した中高一貫教育と考えているのか。

③競争倍率が6倍以上と、かなり高くなっているが許容範囲はあるのか。

◇①6年間一貫したということについて、中学校段階では基礎・基本が大切であると考えている。色々な学習内容を前倒して、早く学習していくことよりも、中学校段階でじっくりと深く学んでいくことにより、高校段階での飛躍的な学力の伸長につなげていきたいと考えている。そのひとつとして、スパイラル学習というシステムを設けた。高校の学習をやらないのではなく、高校の学習内容を中学校の視点からやり、それをさらに高校で高校教育の視点から学習することでより理解が深まる。こうしたことは、6年間の中高一貫ならではと考えている。

②他の教科も少しずつ授業数が多くなっている。理数教育を重視したいということから、数学の授業時間を多くとっているが、基礎・基本を大事にしたい、じっくり深く学ばせたいということが基本的な姿勢である。したがって、文系・理系に特化したようなことは特別に考えていない。

③許容範囲はない。だれでも受検できる。

(岡谷市 女性)

○併願について、「他の公立中等教育学校又は公立併設型中学校は志願できない」とあるが、説明してほしい。甲陵や信大附属は受検できないということか。

◇公立の場合は併願できない。信大附属のように国立の場合は併願可能である。

(岡谷市 女性)

○選抜試験は屋代附属中学と同じ問題であると聞いた。その平均点が20点、30点位であるとも聞いた。そのテストの点数で学力が測れたのかという意見もあったと聞いている。これから問題の改善もあるのか。

◇色々な正答率の問題が沢山あることが、むしろ望ましいと考えている。しかし、平均点であるとか、問題の量については、また考えていきたい。

○公立の中学校なので担任を持つ先生は、今と同じ公立の先生がやるのか。

◇担任は、公立の普通の中学と同じ先生方が持つことになる。人事についても、中学校については、公立の中学校の先生方が異動してくることになる。ただし、授業については、中高一貫校であるので、高校の先生が中学校の授業を受け持つということもある。

平成24年5月18日(金) 18:30~20:30

茅野市役所 8階 大ホール

参加者 約290名

(岡谷市 男性)

○報告書は、各小学校によって、評定の判断基準が違うと思う。選抜方法で、適性検査・報告書・面接の割合はどのくらいなのか。

◇報告書は、小学校の校長先生を委員長とする報告書作成委員会ですっかりと作っていただく。5、6学年ともに24点ずつで、合計48点となる。適性検査はⅠとⅡそれぞれ100点ずつで、合わせて200点となる。面接はA、B、Cで評価し、それらを総合的に判断して可否の判定をする。報告書の作成については、実務担当者会議の折に小学校の教頭先生方に、書き方について周知徹底を図っていく。

(地元小学校教諭 男性)

○中高一貫校は、通常であると、高校2年で高校の授業範囲が終わり、高校3年では受験対策を行う。清陵の中高一貫では、高校で外進生が入ってくるが、一緒にうまく、受験体制が取れるのか。

◇清陵附属中学の中高一貫では、高校2年生で高校の授業範囲を終え、高校3年で受験対策を行うという方法はとらない。中学校段階でじっくりと深く学んでいくことにより、高校段階での飛躍的な学力の伸長につなげていきたいと考えている。このことは、内進生にとってプラスになるとともに、外進生にとってもそういう内進生と共に学ぶことによって切磋琢磨して学習することができるという点でプラスになると考えている。

(男子小学生)

○どんな部活動があるか。

◇中学生だけでできる部活動と、高校生と一緒にやる部活動を、施設・生徒数・活動時間などを踏まえ検討中である。今年度末の3月に決定する。補足として、清陵高校には、運動系20、文科系24の部と3つの同好会がある。一般の中学生は、中学3年生の後期には、高校入学に向けて受験勉強をしなければならないが、附属中学ではその時期に部活動に時間を費やすこともできる。これは、中高一貫校の一つの魅力である。中学3年の後期に、高校の部活動の仮入部的な期間を設けることも現在検討中である。

(岡谷市 男性)

○屋代高校附属中学の場合、430名ほどが不合格になっている。その子どもたちのケアはどうするのか。

◇義務教育課、教学指導課と連携しながら、不合格になったことをどう受け止めるか、今後の進学先となる中学校での目標をどう持たせるとかなどについての指導を各小学校にお願いしていく。このことについては、実務担当者会議の折にも、高校教育課より、小学校の先生方にお願いしていく。

(松本市 男性)

○適性検査について、普段の生活の中でどういうことに気をつけて勉強していけばよいか。また、こんな力をみたいといったものがあれば示してほしい。

◇基本的知識を身につけようとする学習意欲を持って勉強することはもとより、普段からしっかりと考えたり、じっくりと物事を観察することなどを通して、思考力・判断力・表現力を身につけていくことが大事だと思う。出題は小学校の学習指導要領の範囲で、小学校6年生の概ね11月までに学習した内容を基にしている。学校の通常の学習をやっていればできる問題である。日頃から、自分で考えたり、友達と考え合ったりして意欲的に学ぶこと、問題解決のために筋道立てて考えたり、自分の考えを表現したりして最後まで粘り強く取り組む、そんな習慣を身につけてほしい。

(男子小学生)

○登山活動はあるか。

◇自然体験学習等をしていく必要性は考えている。登山・キャンプなどを実施するかどうかは、現在検討中である。様々な体験活動はしてほしいと考えている。

(茅野市 女性)

○①修学旅行はあるか。

②選抜試験は屋代附属中学と同じ日に実施されるのか。

③合格者は80名程度なのか。

④清陵附属中学に合格したら必ず行かなければならないのか。

◇①各学年で宿泊行事をやりたいと考えている。修学旅行については検討中で、3月までには発表できるようにする。

②同一日の同一時間に実施する予定である。

③男女40名ずつの80名である。

④資料に掲載されているように、やむを得ない事情がある場合には入学辞退ということもあり得る。その場合には、繰上げ合格で、80名を確保する。

(茅野市 女性)

○面接は、集団生活の適応性をみるとあるが、ディスカッションを実施するのか。

◇短い時間の中で面接を行うため、ディスカッションは行わない。

(茅野市 女性)

○内進生と外進生と一緒に勉強するということが、そうすると、附属中学に入るのに努力し、また、附属中学で頑張ってきた子どものメリットがないと思うがどう考えているか。

◇清陵附属中学では深める学習を大事にする。先程スパイラル学習を説明したが、例えば、高校の内容を、中学生の視点で学習する。高校に入って、同じ内容を高校的な視点で学習した時に、より理解が深まる。そういったことから、学習面では十分にメリットがあると考えている。県外の先進校を視察してきたが、6年間は長いので、どうしても中だるみが出たり、学力差が広がってしまうようである。そういったことを解消するためにも、習熟度別講座を編成していきたい。その習熟度別講座は固定されたものではなく、学習意欲の喚起や伸ばすところは伸ばす、補充すべきは補うという観点で行うので、十分メリットがあると考えている。また、人間性の部分についても、幅広い人間関係の中で行っていくことに意味がある。内進生・外進生を一緒にして効果をあげている先進校としては、東京都の両国中高、岡山県の操山中高、千葉県の子葉中高などがあり、学力と共に人間性も高めたいという趣旨で色々工夫して成果をあげている。

(男子小学生)

○自転車通学はできるか。

◇清陵附属中学の位置は非常に交通量が激しい。安全の確保という観点から、公共交通機関または徒歩と考えている。自転車通学については、安全面を考えながら、慎重に検討したい。

(岡谷市 女性)

○外進生の枠は、今より2クラス分減るといふことか。

◇附属の中学生が高校に入学するのは、平成29年以降ということになるが、平成29年以降の他地区からの流入数や他地区への流出数、中学校の卒業予定者数の推移を見ながら最終的に入学者数を決める。現時点では2学級分引いた4学級が妥当ではないかと考えている。

○部活動は、希望する生徒は全員できるのか。

◇開設する部活動については、まだ決定していない。遠距離からの通学生がかなりいる可能性があると思われるので、時間的に制約されるであろう。放課が4時の週4日間を部活動などの活動に当てられるが、上諏訪駅を上下線ともに6時発の電車で帰りたいので、活動は5時30分くらいまでになる。その限られた時間の中で部活動は行っていく予定である。

(茅野市 男性)

○アドバンスとスタンダードは習熟度を表していると思うが、理系で、理科はアドバンスだが、数学はスタンダードである場合もあるのではないか。その点を説明してほしい。

◇教科ごとではなく、基本講座として習熟度別に分ける。その上で、教科内の習熟度を学年によっては取り入れる予定である。

○例えば数学なら、アドバンスはどんどん先に進む、あるいは応用力をつける問題に取り組む。スタンダードは、じっくりと、あるいは計算中心の授業を行うといったことになるのか。

◇詳細はこれから詰めていくが、大枠では、アドバンスもスタンダードも共通の教材を使うことを基本とする。必要に応じて、どちらの講座も、他の教材を取り入れる。

○共通のものを使っていたら、習熟度の意味がないと思う。アドバンスとスタンダードという習熟度というところを意識して指導していくのであれば、おのずと深みが違ってくるはずだと思う。学校のテストでは、それがどのような形で出題されるのか。アドバンスで深めている内容も含めて、スタンダードの生徒にも共通のテストを行うのか。そうでないと、共通の評価はできないと思う。そういった、評価とテストについて答えてもらいたい。

◇詳細はこれからであるが、共通のテストで評価していきたいと思っている。その場合、基礎的なことも応用的なことも配慮してテストを作っていく。

○そうすると、スタンダードに入っている生徒は、授業で扱っていない問題も出てしまうということになる。その点についてはどうか。

◇まだ検討をしている段階にあるが、方向としては、共通の部分もあり、アドバンス用、スタンダード用の選択問題も作っていく工夫をしていく必要もあると思っている。

○スタンダードの上位にいる生徒は、アドバンスに限りなく近い力があると思う。スタンダードの方でレベル的に低い問題が課され、アドバンスの方でも、下の生徒にとっては難しい問題が課される。そういった矛盾点は出ないのか。スタンダードで高得点を取った者の評価とアドバンスで低かった生徒の評価をどう矛盾なくつけていくのか。

◇もう少し時間をいただいて検討していきたい。

(諏訪市 男性)

○選抜は、適性検査 200 点、報告書が 48 点ということだが、この1点の重みは、両方とも同じなのか。また、面接のA、B、Cというのは選考全体の中でどのような重みがあるのか。

◇適性検査の点数と報告書の評定合計点に、報告書の記載事項と面接の結果を加味して、総合的に判断する。

(茅野市 男性)

○「人間性を高める教育」ということについて、この学校の理念であったり、中高一貫校教育ならではの人間性教育のポイントを教えて欲しい。

◇教育目標に「生活全般を通して多様な経験を積む機会を設け、豊かな人間性や公共性、社会性を育む」としている。具体的には、説明資料にある「豊かな人間性を育む多様な体験」に記載されている活動を行っていく。特に、豊かな人間性という面では、高校での生活集団としての学級編成を、内進生 80 人という少ない集団でなく、外進生と共に活動できるようにすることにより豊かな人間性が育まれると考えている。

(男子高校生)

○行事・部活動を中学と高校で共同で行うことを検討していくという説明であったが、共同でやるとしたら、非常に狭い空間になると思う。共同でやっていくことを目指しているのか、別々にやっていくのか、ある程度の方針が出ていたら教えてほしい。

◇施設の問題、中高生合わせての人数の問題、中学生の活動時間の配慮などを考えて、中学生だけで行う部活、中高合同で行う部活を決めていきたい。また、色々なところで高校生の意見も聞きながら決めていきたい。

平成 24 年 5 月 22 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 30

塩尻市保健福祉センター 3 階 市民交流室

参加者 約 100 名

(保護者 男性)

○諏訪地域には学力低下の問題もあると思う。知人の話を聞いても、子どもを北杜市の甲陵、あるいは松本深志に入れたいと願っている声が多い。清陵高校の中学併設ということの中には、地域から生徒が流出するの

を防ぐという狙いもあると新聞等で聞いている。そうであるならば、諏訪清陵附属中学に子どもを入学させて、将来的にどこを目指せるのかということをはっきりさせてもらいたい。大学受験の進学率を含めて、考えを聞かせてもらいたい。今日の説明の中では、大学受験を含めた進路の面では、一貫教育のメリットが感じられなかった。外進生と同じクラスにするということで、カリキュラム的にもどうなのか説明してほしい。

◇長野県の教育委員会では、中高一貫校の設置については、学力向上と人間性の2つの面から考えている。学力と人間性を兼ね備えたリーダーを育成していきたい。大学進学については、学力向上をはかる中で、結果的についてくるものではないかと考えている。

一貫教育の中学校段階では、基礎・基本を大切にしたい。より深く基礎を学ぶことで、高校段階での飛躍的な学力の伸長に繋がると考えている。中高一貫校の中には、より早く進めて、大学受験対策の時間を作るという考え方でやっている学校もある。しかし、先進校を視察してみると、早く進めることで、理解がしっかりできていない、あるいは学力差が拡大したり、中だるみが起こっているという実態がある。本校でも、中学段階で高校のことに触れないわけではない。高校の学習を中学校の視点で学び、さらに、高校段階で高校の視点・やり方で学び、本当の力にしていきたいと思っている。これは、中高一貫のメリットと考える。さらに、6年間という幅広い年齢集団になるので、部活動・生徒会活動を通じて、豊かな人間性を育む環境があることも、中高一貫校のメリットであると思う。

また、中高一貫教育は、高校の入学者選抜がないので、6年間の継続的・計画的な教育課程の展開ができるという利点がある。キャリア教育・ボランティア活動・土曜授業などの地域との交わり、こうした活動の中で生徒が人間性を育てていくというのも中高一貫校ならではの活動であると思われる。

○人間性を育てるのは、別に中高一貫校でなくてもよいのではないかと。普通の公立中学でもできるし、高校でもできる。人間性のことばかり主に説明されると、中高一貫校であることの意味合いがよくわからない。

◇長野県の中高一貫教育では、学力向上と人間性ということを理念に掲げているが、やはり、中高一貫には、高校入試がないという利点がある。そのゆとりを活かして、6年間の中でじっくりと考えて様々なことができる。早く進めて、知識を詰め込んで、受験に対応しようというのではなく、体験的な学習を通して、物事の本質を深く理解することができる。そういった特色ある学習から、高い志と責任感を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成したいと考えている。

(松本市 男性)

○開校にあたっては他県の先進校を十分に視察しているとのことだが、視察だけでは分からないと思う。本当に6年間の教育を経験した人の生の声を聞かないといけないと思う。学校としては相対的に成功していても、個々のことについては様々な問題があると思う。子どもを6年間預けたのに、結果がこれか、ということも出てくると思う。まだ時間があるので、中高一貫を経験した様々な人の意見をきいてほしい。

◇今後とも色々なご意見をお聞きしながら進めていきたい。

(松本市 保護者 女性)

○ついていけなくなった生徒に対しては、補習等のフォローをしてもらえるのか。

◇学力差がつくことに対して、中学校段階ですっかりと配慮する必要があることを、県外の先進校を視察して学んだ。まず、65分授業でじっくりと授業を進め、しっかりとした力をつけさせたい。それでも十分に理解できない場合は、土曜学習講座を行い、そこで補っていきたい。

(保護者 女性)

○今回は、地域説明会ということで、保護者・地域への説明であると認識しているが、子どもたちへの説明会はいつになるのか。

◇具体的内容について、来年の5月に、学校説明会を開催したいと考えている。時間にも配慮し、小学生も参加しやすいようにしたいと考えている。

(松本市 保護者 男性)

○教育理念であるとか入り口についてはよく理解できたが、国公立大学合格者数などのゴールに対する目標設定があれば教えてほしい。

◇長野県の中高一貫教育の理念に準じて教育目標を立てているので、大学進学を第一義にしているわけではない。ただ、骨太なリーダーの育成を目指す結果として、大学進学率も後からついてくるものとする。具体的な一つの方法として、習熟度別講座においてアドバンス講座を設定する。さらにその講座を半期ごとに入れ替えることにより、学習意欲を喚起していきたいと思っている。

(塩尻市 保護者 男性)

○現在の高校の敷地に中学校の校舎を建てる説明写真を見て、校庭が大分狭くなる気がする。そこに240名、人も増える。体育の授業・学校運営の上で不便になりそうなどあったら教えてもらいたい。

◇中学棟を建設する場所については、できるだけグラウンドがつぶれない形で建てるように計画している。グラウンド以外の部分については、体育館・音楽室・家庭科室などが中高共用になる。しかし、現在清陵高校は、1学

年6学級規模であり、かつて、8学級あったときのことを考えると、大きな支障にはならないと考えている。

(塩尻市 保護者 男性)

- 弁当持参が基本で、ランチボックスを斡旋することだが、成長期であるので、栄養面で配慮してほしい。
- ◇業者の選定等はこれからになる。病院等に納入実績がある業者を選定して、栄養バランスに配慮した弁当給食になるようにしたい。

(塩尻市 保護者 女性)

- 地元の公立中学校では、かなり保護者と綿密に接点を持って子どもにかかわっている。その点、附属中学はどう考えているか。
- ◇附属中学は、広域となり、そのあたりに不安を感じるかもしれないが、同じように、綿密に対応していきたい。PTA活動等の組織については、これから考えていきたい。

平成 24 年 6 月 1 日 (金) 18 : 30 ~ 20 : 30

長野県伊那合同庁舎 5 階 講堂

参加者 約 70 名

(伊那市 男性)

- 上伊那地区の子どもは、自宅からの通学が課題になると思う。公共交通機関を利用するとの説明があつたが、具体的にどのように想定しているか。
- ◇電車と徒歩での通学を考えている。中学生だと大変だと思うが、清陵の高校生で、上伊那地区から通っている生徒は、現実にもその方法で登校している。

(箕輪町 女性)

- ①高校に入学する時に、清陵高校に該当する力がないと判断した場合は他の高校への進学等も指導するか。
- ②附属中学校に 80 名入学するということは、全体の定員が 80 名増えるということか、それとも、現在の高校の定員がその分減るのか。
- ◇①6年間の中高一貫であるので、責任をもって6年間面倒をみる。先進校を視察・研究したが、どうしても学力差は生じてくるようである。学力差を抑えるためにも 65 分授業で、じっくりと、基礎・基本を固めていきたい。それでも足りない場合は、土曜講座等の補習で補足していく。
- ②附属の中学生が高校に入学するのは、平成 29 年以降ということになるが、平成 29 年頃の他地区からの流入数や他地区への流出数、中学校の卒業予定者数の推移を見ながら最終的に入学者数を決める。現時点では2学級分引いた4学級が妥当ではないかと考えている。

(辰野町 女性)

- 自分の考えでは、大学進学を考えて、先取りをしていく形もよいと思う。高校受験がないのだから、中学 3 年次に高校の内容を先取りしてもよいのではないか。そのほうが、地元を受け入れられるのではないか。屋代附属中学ではどうなっているのか。また、全国の中高一貫校をみて、これが一番良い方法なのか。
- ◇6年間の長い期間にはどうしても学力差がついたり、中だるみが起こってしまう。そうしたことに對して、中学校段階でしっかりと配慮する必要があることを、県外の先進校を視察して学んだ。清陵附属中学では、中学校段階でじっくりと、深く学んでいくことにより、高校段階での飛躍的な学力の伸長につなげていきたいと考えている。高校の内容をやらないというわけではない。高校の内容を中学の視点で学習していき、また、高校では高校の視点で学ぶというスパイラル学習を行う。また、より高いレベルのアドバンス講座を設定して、力を伸ばしていきたいと考えている。清陵附属中学では、いま述べてきたような方法が、伸ばす力を伸ばすという点でも良い方法であると思っている。
- 屋代附属中学については、内進生と外進生を混合したクラス編成は行わない。ただし、教科・科目に応じて、混合のコース・講座を編成し、切磋琢磨していく。屋代附属中学の特徴としては、中高一貫の良さを最大限に活かして、中高の枠にとらわれず、各教科の学習内容を体系的に再構成した体系的な学習が特徴の1つである。

(伊那市 男性)

- 1学年 80 名ということで、部活動はどのようになるのか。それは、いつ明らかになるのか。
- ◇今年度の3月までには、明らかにして、来年度5月の学校説明会の折には、紹介できるようにする。部活動につ

いては、6年間であり、幅広い年齢層でもあるので大事にしたい。高校生と中学生の体力的な差、発達段階のこと、施設のこと、人数のことなどを配慮して決定していく。屋代附属中学でも、中学単独の部活動はハンドボールと吹奏楽しかないというように制限されているが、それでも、生徒の95%(運動系50名、文化系26名の合計76名)が加入し活動している。

(伊那市 男性)

○通学時間はどのくらいか。また、部活動時間との関係を教えてほしい。

◇屋代附属中学では、須坂から軽井沢の範囲の生徒が通学しており、通学時間の一番長い生徒で、1時間15分。部活動は6時頃には終了していると聞いている。伊那市からだだと上諏訪駅まで1時間くらいかかる。開設する部活動については、まだ決定していないが、遠距離からの通学生がかなりいる可能性があると思われるので、時間的に制約されるであろう。放課が4時の週4日間を部活動などの活動に当てられるが、上諏訪駅を上下線ともに6時発の電車で帰りたいので、活動は5時30分くらいまでになる。その限られた時間の中で部活動は行っていく予定である。

平成24年6月12日(火) 18:30~20:30

長野県松本合同庁舎 2階 講堂

参加者 約90名

(松本市 女性)

○入学者選抜の合格者の発表場所が、屋代附属中学となっているがどうか。

◇現在入学者選抜が行われているのは屋代附属中学のみなので、このようになっている。平成25年に清陵附属中学の選抜が行われるようになった際には、新たな発表場所等について情報提供していく。

(辰野町 男性)

○①現在の高校は、1学級の人数は40人なのか。附属中学の合格者が、2学級80人ということなので、内進生と外進生が一緒になる高校の時には、現在と同じ6学級になるのか。

②附属中学に入学した場合、高校進学時に別の高校を受検することは可能なのか。

◇①高校は1学級40人である。高校は現在6学級で、附属中学は2学級なので、外進生としての入学者は、現時点では、4学級が妥当な数字だと考えている。また、附属中学の1学級の生徒数は、高校との接続を考えて40人になっている。ただし、英語・数学の授業では少人数講座を編成して授業を行う予定である。

②中高一貫という6年間をしっかりと意識して入学してほしい。しかし、転居等やむを得ない場合は、他校を受検できる。ただし、他校を受検した場合、諏訪清陵高校へ進学することはできない。

○中学の時は男女同数であるが、高校ではそれが崩れるということもあるのか。

◇高校受検の際に男女同数という規定はないので、高校では男女同数でないということもあり得る。

(松本市 男性)

○①選抜において、面接は、A~Cの3段階で評価されるということだが、適性検査の200点、報告書の評定48点に対して、どのくらいのウエイトを占めているのか。

②適性検査の内容は、小学校6年生の概ね11月までの学習内容とあるが、小学校によって学習の進度が違うと思う。曖昧な表現でなく、科目ごとに、ここまでという指示を出すことはできないか。

③中学段階で英検準2級の全員取得、高1段階で英検2級取得を目指すとするが、現在の諏訪清陵高校の1年生で英検2級を取得している生徒がいたら、その数字を教えてほしい。

◇①デジタル化できる客観的なデータ(適性検査の得点と報告書の評定合計点)を基に、報告書の記載事項及び面接の結果を加味して総合的に判定する。

②作成に際して、各市町村、学校の進度の差に配慮して、支障のないようにしたい。

③現在の高校では、希望者受検で行っている。人数のデータは今持ち合わせていないが、合格者の中には、1級合格者もいる。今後は全員受検の体制も含めて検討していく。

(松本市 女性)

○①子どもが通っている小学校は通知表がないが、どのように報告書の評定がつけられるのか。

②諏訪地区の子どもたちは松本・山梨方面にだいが流れていると聞いたが、その原因について清陵高校ではどのように分析しているか。また、内進生が外進生と一緒にいる頃の見通しはどう考えているか。

◇①通知表がなくても、小学校児童指導要録に基づいて記入していただくので問題ない。

②諏訪清陵高校でも分析はしているが、明確な分析結果は出ていない。思いとしては、諏訪の子どもは諏訪で育ててもらいたい。そういう願いを持って努力している。流出の一つの原因として、進学実績も考えられるので、諏訪清陵高校の最重点目標として学力向上を掲げ、それぞれの生徒の進路目標が実現するように生徒・職員ともに頑張っているところである。附属中学の目標にも「高い学力」を掲げており、結果として、今の清陵高校が抱く目標につながってくればよいと思う。

(松本市 女性)

○①公立の中高一貫のイメージがなかなか掴めない。子どもの適性はどのように見定めればよいか。

②公共交通機関を利用してマナーを身につけたり、6年間の一貫した教育方針に則って生活ができるなどメリットを感じる。設立側からみたメリット、デメリットを教えてもらいたい。

◇①本人の希望があると思われるが、ご家庭あるいは小学校の先生などと相談して進路を決定していくことになると思われる。小学校6年生の段階から、子どもが自分の将来のことを考えるということは非常にいいキャリア教育になるのではないかと考えている。

②中学3年・高校3年が一貫の6年になるというところに、メリットもデメリットもあると思う。メリットは、中学から高校になるのに入試がないということ。その分、じっくりと本質的な学習ができる。それが、結果として大学入試に役立つと思われる。また、部活動では、市町村の一般の中学校では、3年生の後半は高校入試に時間を割かなければならないが、中高一貫校では、この時期も部活動に時間を費やすことができる。附属中学ではこの時期を高校の仮入部的な時期にすることも検討中である。もう一つのメリットは、12歳～18歳という幅広い年齢の関係の中から様々なことを学べるということ。逆に、デメリットは、高校入試がないことから、中2～高2という長い中だるみになることがあるということ。それから、私立の中高一貫校と違い、学力検査で入学するのではなく、適性検査で入学するために、入学時にやや学力の幅が広いということなどから、6年間に学力差が広がる傾向があることを先進校の視察から学んだ。それを防ぐために、清陵附属中学では内進生と外進生とを一緒に学ばせることで刺激を与えたり、入れ替えのある習熟度別講座を設けて刺激を与えていく仕組みを考えている。

(松本市 女性)

○授業が第一ということに惹かれている。今の清陵の高校生は塾に行かない生徒は多いのか。もし、子どもが入学できた場合、部活動をやり、なおかつ時間をかけて通学することになると思う。そうした場合、塾に行く時間もないので、学校の授業だけで学んでいくのが理想だが、それだけで大学進学のを補えていけるだろうか。

◇塾へ行っている生徒はいるが、多くの生徒が、授業を大事にしている姿が見受けられる。また、高校では、授業で足りない分は補習を行っている。その量を考えると、塾に行かなくても十分なものと思われる。今年卒業した生徒の中にも、遠距離通学で部活動もやっていたが、通学時間も大事にしてその時間を勉強に当て、志望の大学に現役で入学できた生徒もいた。

○英語について、中学校に入る前にヒアリング能力を鍛えておいた方がいいという意見もあるが、どうか。

◇平成23年度から小学校で外国語活動が始まっている。そこでは、聞く・話すというコミュニケーション能力の素地を養うことを目標にしている。清陵附属中学では、入学生をそれらの小学校の外国語活動をやってきた生徒という認識をもって授業をスタートさせるので、それ以上の準備の必要はない。

(松本市 男性)

○①選抜の時期が早いと思う。なぜこの時期なのか。

②確約書を出す時期も早いですが、その後で、親が転勤ということも考えられる。確約書を出すと完全に入学が決定してしまうのか。

◇①あまり早い時期に実施すると、小学校での教育活動に影響を与えてしまうことからできるだけ遅いことが望ましいが、逆に遅すぎると公立中学校の定数決定に大きな影響を与えてしまうこともあり、それらのことを考慮してこの時期に決定した。

②やむを得ない事情があるときは入学辞退もできる。このことについては、本日配布の冊子にも記載してあるので参考にしていただきたい。

(松本市 男性)

○①適性検査Ⅰ・Ⅱの試験内容は公開されているか。どんな勉強をすればよいか。

②部活動について、私立の中学では、テニスや野球に硬式を取り入れているところもあるが、清陵附属中学ではどう考えているか。

◇①平成22年度の試行検査、23年度の屋代附属中学の選抜ともに、県のホームページに問題・正答例・結果等について掲載されている。基本的知識を身につけようとする学習意欲を持って勉強することはもとより、普段からしっかりと考えたり、じっくりと物事を観察したり、友達と考え合ったりしてほしい。問題解決のために筋道立てて考えたり、自分の考えを表現したりして、最後まで粘り強く取り組んでいくことが大切である。

②部活動については検討中であり、今年度末にははっきりと決めて、来年5月の学校説明会の折には紹介できるようにする。人数・施設・発達段階等を考慮して検討していく。硬式テニス・硬式野球なども検討していくが、中体連の大会がないことなどの問題もあると思う。

(松本市 男性)

○公立の中高一貫校なので、先生方の転勤があると思うが、既存の中学校・高校の先生方が転勤するのか、それとも中高一貫校の教員がローテーションで交代するのか。

◇公立の職員なので当然転勤はある。中学校へは他の公立の中学校から、高校は他の公立の高校からということになる。ただし、中高一貫校なので、中学の教員が高校を、高校の教員が中学を教えるという相互乗り入れ授業という形を構想している。